

平成 25 年度第 1 回うらやす市民大学運営委員会議事要旨

- 日 時 : 平成 25 年 5 月 10 日 午後 2 時 00 分～ 4 時 30 分
- 場 所 : うらやす市民大学受講室
- 出席者 : 古在委員長、山内副委員長、宮崎委員、阪本委員、山本委員、早坂委員、田村委員、豊田委員、笥委員、石川委員、伊藤委員
- 事務局 : 小檜山市長公室次長、村田協働推進課長、齋藤協働推進課係長、岩波事務長、高梨主幹、森主事

■会議次第 :

- (1) 開会
- (2) 委員長挨拶
- (3) 議事
 - ・平成 25 年度学生の募集結果及び選考の考え方について
 - ・その他
- (4) 閉会

■議事概要 :

- (1) 平成 25 年度学生の募集結果及び選考の考え方について

■決定事項

- ・応募が少なかった授業科目の「うらやすの健やかな子育てを考え行動する」講座の閉講、「うらやすの市民参加・協働を創る」講座のカリキュラム改編し再募集することとした。
- ・定員を超える応募のあった授業科目「うらやす街の園芸実践講座」、「市民力が育てるうらやすの高齢化社会」の定員増員、「世界とつながる（‘We are with you.’）うらやすを創る」の定員増員をし、抽選を行うこととした。
- ・次回の運営委員会開催を 7 月 23 日(火)午前とした。

□事務局説明（第 6 期の募集状況と選考方針）

○応募結果

- ・応募締切の 4 月 20 日時点で応募者数 242 人であった。偏りが多かったため 10 日募集期間を延長した。その結果、応募者数は 266 人。昨年に比べて 6 名の減となった。
- ・応募の内訳は新規生が 74 名、継続が 192 名。

○応募傾向

- ・延べ受講者数が減少し、一人平均 1.61 科目から今年は 1.39 科目となった。各講座毎の勉強会の立ち上がりや学生会の活動が活発になったことにより、応募科目数が減少

傾向にある。

- ・しばらく応募者の約 40%を 1 期生が占めていたが、今年は 1 期生 30%、新規生 28% となり、応募者の構成比が平準化傾向にある。
- ・基礎教養系講座の受講生が減少。昨年は、歴史・経済で計 131 名、延べ受講者数の約 30%であった。今年は 33 名となり、延べ受講者数の 8.9%となっている。昨年の歴史・経済の延べ 131 名中の 75%は今年、他講座へ応募。今年応募の歴史未来学 9 人中 8 人、浦安物語 24 名中 11 名は昨年の歴史・経済を受講している。基礎教養系講座を受講している方は同じような講座を受講する傾向があるかもしれない。今後、調査を進め、次回の運営委員会で検証していく。
- ・平均年齢は、団塊の世代の加齢とともに上昇。今年は過去最高の 67.48 歳。

○応募の少なかった授業科目について

- ・「うらやすの健やかな子育てを考え行動する」が 1 名、「うらやすの市民参加・協働を創る」が 3 名の応募。
- ・「子育て」担当コーディネーターの意向として、子育て中の母親同士の仲間づくりの講座でグループワーク中心の授業形態のため、授業 10 名程度の受講者の確保が必要なため、閉講が妥当。
- ・「子育て」講座へ応募いただいた方へ子ども部主催の子育て家族支援者養成講座のカリキュラム内容をご案内している。
- ・「協働」担当コーディネーターの意向として、閉講 or カリキュラム改編し再度募集のどちらか。
- ・「協働」は他講座にも通じる共通テーマのため、開講を 12 月以降とし、授業回数を縮小、在校生に再募集し、開講方針とする。

○定員を超える応募のあった授業科目の選考について

- ・「世界とつながる」、「うらやす街の園芸実践講座」、「市民力が育てるうらやすの高齢化社会」の 3 講座が定員を超える応募があった。
- ・定員を増員した場合、決定通知にてその増員した旨を申込者全員に周知する。
- ・過去、10 名以内の応募超過はすべて定員増で対応している。「園芸」、「高齢化」の 2 講座については、定員超が 10 人未満となっている。
- ・「世界とつながる」は応募が 66 人。受講室に入らないため、コーディネーターの山内先生と調整し、受け入れ人数を 55 人とした。選考委員にて抽選を考えている。より多くの方に入學していただくため、第一順位は新規申込者、第二順位は単願者としている。以降は抽選と考えている。

□学生会活動報告

- ・冊子制作・編集委員会報告

□主な意見

- ・新規入学者の割合が減少している。市民大学に入りたいがハードルが高いという意見がある。今後の対応について検討する必要がある。
- ・公民館は半分くらいが趣味的な講座が多い。それをきっかけに公民館に足を運んでいただき、次回違うことにトライしていただける。市民大学も入りやすいところを作り、そこからさらに奥に入っていくのもいいのではないか。
- ・入学し、気づいたら協働の担い手になっていたという方法もある。市民大学の目的をストレートで伝えてきたが、伝え方、表現の仕方を工夫していく。
- ・出会い（入口）ばかりで終わる方もいるのでは。気づき、担いまで渡り切れているか検証をしていく必要がある。
- ・市民大学からできた団体で、実際に地域に出て市民活動している団体もある。協働事業提案制度による協働事業を進めているものもある。
- ・今後、在学生在が学生以外とどうやって一緒に活動をしていくかが大切になる。在生を通じて新しい学生として入学してくれるという広報PRもある。「あの人がやっているのだから」、「あの人なんだか良さそうだから」ということが入学のきっかけとなる。
- ・市民大学も5年目に入り、今までの意見を含めて今後どう進めていくのかを再整理していく期間に入っている。意見を聞きながら市としても再整理していきたいと考えている。

次回第2回運営委員会開催日程は、平成25年7月23日（火）午前10時から市民大学受講室で開催。

以上